

平成25年度 長野県屋代高等学校・附属中学校 学校評価(職員による評価)

年度末評価:平成26年2月実施

職員による年度末評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

評価指標 評価を A:4点(a人) B:3点(b人) C:2点(c人) D:1点(d人) と点数化し、最高100点満点となるように換算して表示しました。

計算式 $25 * (4 * a + 3 * b + 2 * c + 1 * d) / n$ (総数) 総数(回収数)=68

評価項目	評価の観点	今年度の取り組みの成果	次年度への課題	職員評価				年度末評価指標
				A	B	C	D	
キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	高3 例年の指導体制を踏まえつつ、模試の実施回数やセンター特編の実施期間を検討、生徒の状況に合わせて進路指導を行った。	高2 新課程入試移行へ向けて、また、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。	39	27	2	0	88.6
		高2 例年の指導体制に基づきながら、新たな企画も含めた取り組みも行った。	高1 2・3年次への繋ぎの検討。					
		高1 新たな企画として「大学・企業見学会」「校外集中学習会」、そして「ジョブシャドウイング(希望者)」を実施した。	中学 各学年行事での反省を活かしながら、来年度にはよりよい活動に広げていく。					
		中学 各学年行事を通して、働くことへの理解を深めることができた。興味を持ったことを追究しパソコンを利用しながら発表できた。	中2 より本校の実態に合う、中2キャリア教育の模索					
		中2 職業体験を中心に据え、事前・事後学習も含め、発展的なキャリア教育の枠組みを作ることができた。	中1 修学旅行とキャリア学習の関連についての研究を深める。					
		中1 能登臨海実習におけるYKKとタイタイ病の学習では、鳩学(社会科)や総合の事前学習を充実させ、「生き方」を考えさせる単元となった。	中1 学年をこえる大単元構想の引き継ぎの在り方について。					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	高3 学年通信を通じて進路情報を発信した他、HRや保護者懇談会、保護者説明会を実施した。	高2・1 合格までの具体的プロセスを理解する保護者向けの内容も増やしたい。より内容を充実させたい。	47	20	1	0	91.9
		高2 1 学年通信だけでなく総合学習においても進路情報を学習する機会を増やした。学年通信を中心に進路選択や学習に関わる情報の提供ができた。						
		中学 毎週の学年通信に加え、不定期に学年主任やキャリア主任からキャリアに関する情報等についての学年通信を発行し、キャリア教育として実施した活動を適宜報告することができた。						
		高3 センター試験を目指しての取り組みを重視し、丁寧に個別出願指導を行った。	高3 国公立の受験対策に加え、私立受験の対策も検討していく必要がある。					
全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	高2 各教科の指導の取り組み状況や調査毎の個人成績情報を学年で共有し指導に活用した。	高2 個々の生徒にバランス良く各教科の学力をつける教科間の連携が必要である。	27	37	4	0	83.5	
	高1 「校外集中学習会」を企画して、早い段階での総合的学力の養成に努めた。	高1 各成績層に応じた取り組みを行いたい。						
	中1 総合的な学習や科学リテラシーなどと関連しながら、幅広い学習をすることができた。	中1 個別指導を通して、学力の差をなくしていく。						
	高3 模試の結果等、各教科と連携をとりながら、総合的な学力養成に努めた。	高3 学力層の広がりという現状を踏まえ、それに適した指導を考える。						
生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	高2 各データを元に個別面談指導や、教科指導での活用ができた。	高2 数年間のデータ蓄積による、現在の生徒像の理解と指導法の全体での共有が必要。	25	40	3	0	83.1	
	高1 「学習習慣調査」や「学習計画・実績表」等をもとに、生徒の実態を把握・分析し、面談指導等で活用した。	高1 生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。						
	中学 学習実態調査の結果を分析し、担任との面談を通して、個別に指導することができた。また保護者との連絡を適宜行い指導に活かした。	中学 学習実態別やコース別の学習を必要に応じて実施していく。今後も全職員で、生徒一人一人の指導にあたる。						
	中学 定期考査ごとに生徒相談を行い、生徒理解に努めた。	中学 今年度は中学の教科担当者が年度初めの一回しかできず、全体での情報交換や、評価基準への共通認識などが不十分であった。						
学習指導	魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	委員会 教員相互の授業公開を年2回実施し、教科会で意見交換を行った。また授業研究会を初めて実施した。	委員会 授業力向上のために授業公開をより充実させ、職員研修を企画・実施する。	34	28	6	0	85.3
	生徒の学習実態調査(家庭学習時間など)の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に活かすことができたか。	中1 地域の教育課程研究協議会などにも参加することで、地元小中学校との情報交換もでき、授業力も向上できた。	中1・教科 授業公開の機会は良かった。公開後の研究会での意見交換を充実させられるとよい。授業見学会や検討会の機会を増やしたい。					
	高2 進学に対する意識が高まりつつある。	委員会 例年行ってきた学習実態調査をやめ、スタディサポートを2回実施する。						
	中1 校内考査に適性検査やベネッセ模試、生活実態調査の結果などを相関させながら、多角的な生徒理解に努めた。							
生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	係・高2 例年通り立番指導・講話等を行い、大きな事故は起きなかった。	係・高2 通学中の死亡事故から時間が経ち、風化させない取り組みが必要である。自転車の交通法規が変わり、更に意識の向上を図りたい。また、通学中のマナーの向上にも取り組む必要がある。	38	27	2	0	88.4
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	中学 駅での指導の結果、マナーが改善された。	中1 新入生の公共マナー指導の在り方について。					
	委員会 SCの先生と連絡を密に取りながら、生徒相談に取り組めた。今年度は相談室を利用する生徒はいなかった。	委員会 カウンセリングを受けることに抵抗のある保護者や躊躇する先生方もいるが、深刻になる前に気軽に相談してもらえるようにしたい。						
	中1 毎日の生活ノートや、昼食時間や休み時間なども同じ場で過ごすことで、人間関係のつまづきなどの早期発見に努めた。							
生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各委員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動を行うことができたか。	係 生徒が自分たちで課題を見つけ、自ら考えて解決しようとしている。生徒同士による上位学年との引継ぎがもう少しほしい。活動は意欲的であり、一生懸命であるといえる。	係 自主性を育みつつ、規律が必要な場面ではしっかりメリハリがつくように指導する。	41	26	1	0	89.7
	高2 新生徒会執行部が例年より早めに発足できた。	係 より多くの生徒に参画してもらうこと。						
	中2 中学校独自の活動を展開し、いくつかの新しい取り組みができた。	中学 3年生までそろった附属中学校生徒会の活動内容と高校生徒会との連携の在り方						
	中2 附属中学校の生徒会長を選出し、次年度の方向性が見えてきた。	中1 活動時間や所持品、行動など、高校とは違う中学の班活動のルールの周知徹底。						
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	係 生徒会の自主的な活動として班室棟の清掃、秋季の外掃の徹底を実施した。	係 学力と学習環境美化は相関関係があることを認識させ、自主的な取り組みを促す。	20	30	18	0	75.7
	係 清掃委員会は、ワックスがけ活動、鳩祭りのゴミ拾い等の任務を遂行した。厚生委員会は、資源回収等の作業を実施した。	中学係 中学3年生の清掃分担区を3棟を中心とする方向で計画したい。						
	高2 2棟の壁の塗り替えを夏休み中に実施した。	係 予算の関係で、清掃用具の充実は厳しい状況にある。次年度は事務室と相談しながら優先順位を考え早期に善処する。						
	中学 中学校では縦割り清掃を実施し、上級生が下級生を指導し、校内美化に努めることができた。	係 中学校舎の床が傷みだしている。今年度1回のワックスがけを来年度以降2回とする方向で考えたい。						
人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	係 命をテーマに菅谷昭氏の講演会、人権だよりの発行、HR研修を実施。また職員人権研修の実施など一定の成果をあげた。	係 保健係と合同で性教育講演会を実施する。幅広く人権教育を浸透させ根付かせる。	43	25	0	0	90.8
	中1 道徳の中でも「人権同和」の内容の学習を2時間行った。	中1 中学人権係から本校としての人権同和教育授業のあり方の方向性を提案できるとよい。						
	中1 Q-Uを年に2回実施することで、生徒理解に努めた。	中1 Q-Uは小学校から実施している生徒も多く、費用も安いので、継続の方向としたい。						
	委員会 SSH交流会支援事業など新たな取り組みができた。順調に3年次をこなし、文科省の中間評価では良い評価をいただいた。	委員会 IV期構想について準備が必要になる。						
学校運営	新しい学校づくりに向け、教育課程やSSHのプログラムについて研究を行うことができたか。	委員会 中高一貫に関する講座・コース編成および時間割編成について研究を進め、方向を示すことができた。	委員会 27年度以降の内進生の進級に向けての環境整備	43	24	1	0	90.4
	委員会 教育課程では、中学の内進生、および各教科の実情を考慮し、英語および数学・理科について若干の変更を行った。	委員会 新教育課程の実施に伴う問題点の有無と検証。						
	中2 イングリッシュ・キャンプを実施し、異文化理解を深め、英会話能力を向上させることができた。	委員会 内進生の講座、コースなどの更なる検討。						
	中2 千曲市や同窓会の協力を得て、棚田での田植えや稲刈りを実施することができた。							
本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	係 授業公開、体験授業、学校説明会、中学生に向けての説明会などに多くの参加者があった。パンフレット、屋高の窓など広報活動に努め、小中学生、地域の方々に本校の特色を理解していただけたと思う。	係 実施の時期、時間帯、内容について、更に改善していきたい。	36	30	2	0	87.5	
	係 ホームページのレイアウトを工夫し見やすくした。また、各部署からの情報を集め、高校・中学の特色や活動を発信できている。	中2 附属中学校説明会で、在校生の発表を増やしたい。						